

第2部

アセスメントの紹介

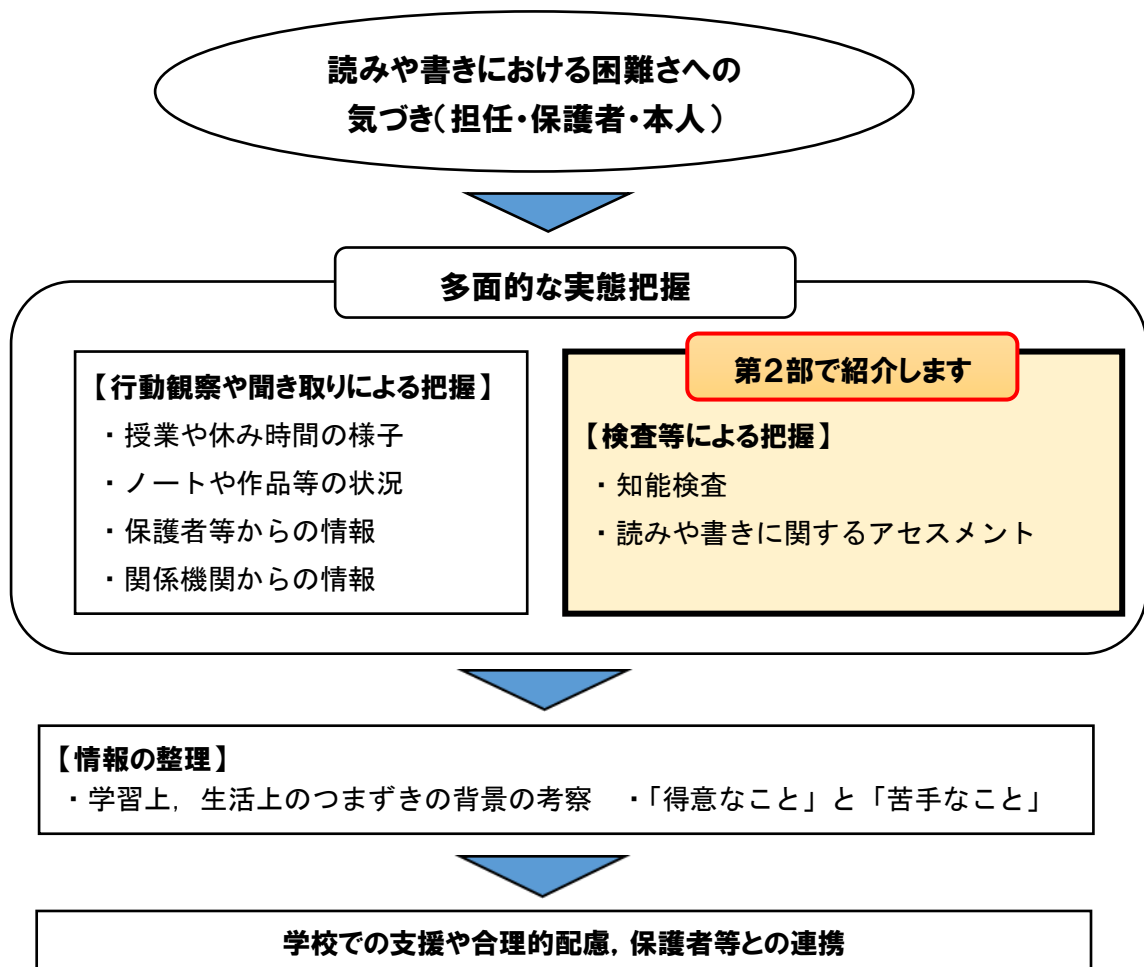


アセスメントについて

子どもの特性をさまざまな角度から把握すること（アセスメントを行うこと）は、教育的ニーズを見極めるときや指導計画を立てるとき、合理的配慮を検討するときには欠かせません。読み書きの困難さの状態は一人一人異なります。実態把握にあたっては、多角的に情報を収集し、指導・支援目標の設定に向けて整理していくことが大切です。本パッケージ第2部ではアセスメントの際に使用できる検査について紹介します。

（１）アセスメントの流れ

担任の先生が読みや書きにおける子どもの困難さに気づいたり、本人や保護者からの相談があったりしたときには、アセスメントを行いましょう。アセスメントを行う際は、検査等による客観的・数値的な実態把握だけでなく、行動観察や聞き取りを通して幅広く情報収集を行います。収集した情報を整理し、得意なことや困難なことをまとめたり、つまずきや困難さの背景を見立てましょう。それらの情報をもとに、学校や家庭での支援を考えたり、合理的配慮について検討したりしていきます(下図参照)。



(2) 検査を実施する際の留意点

検査の選択

検査は、子どもの困難さの程度やその背景要因を探り、支援の糸口を得る目的で行います。検査の選択にあたっては、今回測りたいものは何かを見極め、子どもに過度の負担とならないように選択することが大切です。この第2部では、学校で簡易に実施できる検査から詳細な検査まで、さまざまな検査を紹介します。

保護者・本人の同意

検査の目的や検査方法、検査結果の扱い方等について、事前に保護者や本人に説明します。その際、子どものつまずきや困難さに共感しながら、指導や支援の手がかりを見つけていこうとする姿勢を示すことが大切です。また、保護者の中には、「検査を受けると、何か診断されてしまうのではないか」と不安に感じられる方もいます。事前の説明において、「教育的な支援や配慮を検討する上で参考になる情報を得るために行う」という検査の目的を丁寧に説明し、理解を得ることが大切です。

検査実施時の留意点

各検査に定められている実施方法を遵守して、正しく実施することが大切です。また、子どもが一生懸命取り組もうという意欲が湧くような信頼関係を形成した上で実施することや、子どもが集中を損なわないような検査室の環境づくりも重要です。それらに留意し、子どもが十分に能力を発揮できるように配慮します。

検査結果の分析

検査結果の分析は慎重に行う必要があります。必要な場合は、保護者の同意を得て、外部の専門家に協力してもらうことも大切です。当センターでも、検査結果の分析や解釈に際しては、複数のメンバーで多くの視点を出し合いながら検討するなど、偏った解釈に陥らないように心がけています。

検査結果を保護者や本人に伝える

検査結果は必ず保護者や本人にお返しします。その際、数値だけが一人歩きしてしまわないよう配慮することが必要です。検査結果や検査時の様子を伝えた上で、学級や家庭、授業場面や評価場面等における具体的な指導や支援について提案し、話し合うことが大切です。また、本人に検査結果を伝える場合には、苦手な部分だけが強調されないように配慮する必要があります。本人の意見も丁寧に聞き取りながら、今後、取り組みそうな方法を一緒に考えていこうとする姿勢が大切です。

保護者が医療機関の受診を考えている場合は、重複して検査が行われることを防ぐために、保護者を通じて検査結果を医療機関に伝えてもらうことも必要です。

検査結果や検査用紙などは、「個別の指導（支援）計画」等と一緒に綴るなど、散逸しないように保管しましょう。

1 集団実施に適する簡易なアセスメント

M I M－PM（めざせ よみめいじん）

小学 1 年～2 年



p. 31-33 「1 小学 1 ～ 2 年生に対する支援」をご覧ください。

1 集団実施に適する簡易なアセスメント

T 式ひらがな音読支援の「音読確認」用 簡易アセスメント

小学 1 年



p. 38-42 「1 小学 1 ～ 2 年生に対する支援」をご覧ください。

検査用紙は巻末（p. 157～）に掲載しています。

1 集団実施に適する簡易なアセスメント

スマイル・プラネット版 読み書きスキル簡易アセスメント

目的・特長

小学1年～6年

読み書きスキル簡易アセスメントは、読み書きの達成の程度と、読み書きを支える基礎スキルについて評価します。また、このアセスメントは具体的な教育的支援につなげるためのものです。児童一人ひとりの評価と支援をアセスメントします。各学年の課題は、スマイル・プラネットの web サイトからダウンロードできます。また、web サイトに課題の得点を入力すると「評価コメント」が表示されます。いずれも無料で使用することができます。

適用学年

小学校1年生から6年生までの学年別に課題が用意されています。

課題の構成

① 「ひらがな単語の読み」(1年～6年生)

ひらがなが並んでいる中から、2文字か3文字の物の名前を見つけ○で囲んでいく課題です。制限時間は1分です。

(例)

こ す る め け て へ そ ほ け く ち み れ

② 「漢字の書き」(2年～6年生)

漢字の熟語(2文字)を書きます。全20問です。

③ 「漢字の読み」(2年～6年生)

漢字の熟語(2文字)を読みます。全20問です。

④ 「聴覚記憶(順唱)」(1年～6年生)

検査者が言った数字を聞いて、言った通りの順番で書きます。全6問で、4桁から6桁の数字です。

⑤ 「特殊音節」(1年～3年)

イラストを見て、正しく書かれている言葉を3つの中から選びます。全12問です。

(例)



- ① はっぱ
② はば
③ はつぱ

※ 検査時間は、20分～30分です。

※ 正確にアセスメントするために、全ての課題を実施するようにします。

集計と結果の確認

web サイトに、児童の学年と各課題の得点を入力すると、結果が表示されます。その内容を今後の支援や指導に活かします。

得点

児童の学年

1

2

3

4

5

6

得点の入力

ひらがな単語の読み

2

漢字の書き

1

漢字の読み

2

順唱

3

特殊音節

7

結果の確認

結果

漢字の読みと書きに強い弱さ(10%タイル以下)があります。3年生でひらがなの読み低成績以下(10%タイル以下)と特殊音節単語の読み書き低成績の2つを示す場合には、読み書きの習得が弱い可能性を推測できます。文字習得の程度に合わせて個別的学习支援が必要になります。

支援につなげる

読み書きスキル簡易アセスメントでは、低成績の課題に応じた効果的なプリント（スマイル教材）が紹介されています。

（1年生の例）

低成績の課題	効果的なプリント	配 慮
特殊音節	特殊音節プリント	単語を流暢に読めるように支援
ひらがな単語の読み	ひらがな読みプリント	
特殊音節	特殊音節プリント	苦手な特殊音節を支援
ひらがな単語の読み	ひらがな読みプリント	単語を流暢に読めるように支援

引用元

NPO 法人 スマイル・プラネット
スマイル・プラネット版 読み書きスキル簡易アセスメント
<https://smileplanet.net/specialty/yomikaki/>

2 基本のアセスメント

田中ビネー知能検査 V

出典：一般財団法人 田中教育研究所 編著（2003）『田中ビネー知能検査 V』田研出版

目的・特長

2 歳 ～ 成人

日本でよく用いられる代表的な個別式知能検査です。日本人の文化や生活様式に即した検査で、知的発達のアセスメントとして活用されています。検査対象が幅広く、問題が年齢尺度によって構成されているため、通常の発達レベルと比較することが容易です（ただし、成人級は領域別による構成となっています）。また、検査の手順が簡便で、被検査者への負担が少ないことが特長です。

検査の構成

検査問題は1歳級から13歳級までの96問、および成人級の13下位検査から成り立ち、「思考」「言語」「記憶」「数量」「知覚」など多種多様な内容で構成されています。1～3歳級は12問ずつ、4～13歳級は6問ずつ配置され、それぞれの問題に合格基準が設けられています。

検査手順

被検査者の生活年齢が2歳0か月～13歳11か月の場合は以下の手順で実施し、14歳0か月以上は原則として成人級を実施し、通常は下の年齢級に下がることはしません。

- ① 被検査者の生活年齢（暦年齢）と等しい年齢級から開始します。
- ② 1つでも合格できない問題があったら、下の年齢級へ下がります。全問題を合格する（不合格問題が1つもない）年齢級まで行います。
- ③ 全問題を合格できたら、上の年齢級へ進み、全問題が不合格となる（合格の問題が1つもない）年齢級まで順次行っていきます。

*原則として、各年齢級の問題は問題番号順に実施します。

*発達の遅れが予想される場合は、家族など周囲の人から情報を得て、どの年齢級であればスムーズに検査に入れるかを予想し、開始する年齢級を決めます。

算出方法

生活年齢が2歳0か月～13歳11か月の場合は原則として比例の知能指数（IQ）、14歳0か月以上は偏差知能指数（DIQ）を算出します。

精神年齢および知能指数は以下のように算出します。1問に与えられる加算月数は、1～3歳級は1か月、4～13歳級は2か月です。ある年齢級のすべての問題に合格した場合、その1つ上の年齢を「基底年齢」とし、「基底年齢」を定めた年齢級より上の年齢級で合格した問題数に加算月数をかけた値を「基底年齢」に加えて「精神年齢（MA）」を算出します。

$$IQ（知能指数） = \frac{MA（精神年齢）}{CA（生活年齢）} \times 100$$

入手先

一般財団法人 田中教育研究所

フルセット＜用具、記録用紙（20人分）、検査法＞ 110,500円＋税

2 基本のアセスメント

WISC-IV

目的・特長

5歳0か月～16歳11か月

WISC-IVでは、10の基本検査から全検査IQと4つの指標得点の算出が可能です。5つの合成得点（全検査IQ、4つの指標得点）が算出され、それらの合成得点から、子どもの知的発達の様相を多面的に把握できます。

適用学年（年齢）

5歳0か月から16歳11か月

（被検査者が17歳以上の場合は、適用年齢が16～89歳のWAIS-IIIを使用します）

実施時間

60分～90分

検査の構成

全体的な認知能力を表す全検査IQ（FSIQ）と4つの指標得点（言語理解・知覚推理・ワーキングメモリー・処理速度）を算出します。全検査IQは補助検査を除いた10検査の評価点の合計から算出します。

言語理解	知覚推理	ワーキングメモリー	処理速度
類似 単語 理解 知識 ※ 語の推理 ※	積木模様 絵の概念 行列推理 絵の完成 ※	数唱 語音整列 算数 ※	符号 記号探し 絵の抹消 ※

※補助検査

検査手順

実施・採点マニュアルに従って実施します。

入手先

日本文化科学社 135,000円（コンプリートセット：問題冊子など検査用具一式）
37,800円（換算アシスタント）

2 基本のアセスメント

K-ABC II（カウフマン式知能検査）

目的・特長

2歳6か月～18歳11か月

WISC-IVと並んで広く利用され、幅広い年齢で実施できます。また、漢字や文章作成などの書き課題や算数課題などが取り入れられているので、検査結果そのものを学習の見立てや支援に生かすことができます。二つのモデルで結果を読み取ることができますが、以下では学校現場でよく使われるカウフマンモデルについて紹介します。

適用学年（年齢）

2歳6か月から18歳11か月までが適用年齢です。

検査の構成

- ・全検査IQに相当するのが、「認知総合尺度」になります。
 - 「継次尺度」・・・情報を一つずつ時間的、系列的に処理する能力を測定する
 - 「同時尺度」・・・一度に複数の情報を統合し、全体的なまとまりとして処理する
 - 「計画尺度」・・・高次の意思決定に関する実行機能を測定する
 - 「学習尺度」・・・視覚情報と聴覚情報の対を覚え、それを保持する能力を測定する
- ・今までの学習の積み重ね（基礎学力）を調べることができるのが「習得総合尺度」です。
 - 「語彙尺度」・・・語彙をどれだけ分かっているかを調べる
 - 「読み尺度」・・・ひらがな、カタカナ、漢字、文章の読みの能力を測定する
 - 「書き尺度」・・・ひらがな、カタカナ、漢字、文章の書きの能力を測定する
 - 「算数尺度」・・・計算（筆算）、数的推論の能力について測定する

得点・尺度の解釈

標準得点は100を平均として、その上下のバランスを見ることで発達水準を推定します。また、認知総合尺度と習得総合尺度の比較をすることで、認知能力が生かされているかどうか、学習における負担が重すぎないかを見取ることができます。また、認知総合尺度と習得4尺度の比較から、学習面のどの領域の習得度が低いかを読み取ることができます。

支援の視点

認知総合尺度（知能）と習得総合尺度（基礎学力）の比較をして、強みと弱みを読み取ります。「継次」か「同時」の強みを生かした支援を考えます。「計画」「学習」の能力については、数値が低い場合に、その能力に合った支援方法を取り入れていきます。

入手先

丸善出版株式会社

基本セット 183,600 円 <検査用具、マニュアル・換算表、記録用紙(20部)、習得尺度シート(20部)>

2 基本のアセスメント

実践ガイドライン

目的・特長

小学1年～6年

実践ガイドラインは、読み（音読）の正確さと流暢さを知ることができます。検査の所要時間は15分程度です。

適用学年（年齢）

小学校1年生から6年生までを対象として作成されています。

検査の構成

検査課題は、下記の3課題（4種類）です。

- ① 単音連続読み検査：ひらがな50文字を連続して音読する課題
- ② 単語速読検査：有意味語30個、無意味語30個それぞれ連続音読課題
- ③ 単文音読検査：Token testに採用されている3つの文章の音読課題

いずれの課題も、音読に要する時間（音読時間）と読み誤りなどのエラーを計測します。

検査手順

- ① 単音連続読み検査

ひらがな50文字が書かれているシートを子どもの前に提示し、間違えないように、できるだけ速く読むように教示します。

読み終わるまでの音読時間の計測、読み飛ばし、読み誤りの記録を行います。

- ② 単語速読検査

有意味語単語、無意味語単語の順に実施します。どちらも練習用シート（15個）を使って練習をしてから本番（30個）を実施します。

単語が書かれたシートを子どもの前に提示し、速く、正確に声に出して読む。読み間違えたら、読み直しても構わないと教示します。

読み終わるまでの音読時間の計測、読み飛ばし、読み誤りの記録を行います。

- ③ 単文音読検査

文章の書かれたカードを子どもに渡し、声に出して読むように教示します。

読み終わるまでの音読時間の計測、読み誤りの個数の記録を行います。

入手先

いずれの検査もボイスレコーダー等で録音すると採点時に有用です

「特異的発達障害 診断・治療のための実践ガイドライン

—わかりやすい診断手順と支援の実例—」診断と治療社 3,800円＋税



2 基本のアセスメント

STRAW-R（改訂版）

目的・特長

小学1年～高校3年

改訂版 標準 読み書きスクリーニング検査（STRAW-R）は、STRAWの改訂版として2017年11月に発行されました。小学1年生から高校3年生までの音読速度を調べることのできる速読課題や、漢字の音読年齢が算出できる漢字音読課題、中学生用の漢字単語課題などが加えられました。ひらがな、カタカナ、漢字3種類の表記において、書字の正確性も測定できます。速読課題には文章課題を含んでおり、高校や大学入試で試験時間の延長を希望する際の客観的な資料となります。検査時間は30分程度です。

検査の構成

STRAW と STRAW-R 共通の課題	STRAW-R における新規の課題
ひらがな1文字 カタカナ1文字 ひらがな単語 カタカナ単語 漢字 単語	ひらがな単語・非語 カタカナ単語・非語 文章 漢字126語の音読（小学1～中学2年生） 漢字単語音読と書取（中学生用） 計算（小学生） RAN（Rapid Automatized Naming）（5歳児～高校生）

※（ ）内は、基準値が示されている年齢・学年の範囲

（1）音読の流暢性（速読）

提示された課題を読み終える所要時間を計測し、誤りや繰り返しなどの反応を記録用紙に記入します。

（2）音読と書取の正確性

① 漢字126語の音読

正確に読むことができた単語の数を算出します。

② ひらがな1文字・カタカナ1文字の音読と書取

③ ひらがな単語・カタカナ単語・漢字単語の音読と書取

単語の音読は、漢字、カタカナ、ひらがなの順に行う。単語の音読を先に実施し、書取はできる限り単語の音読とは別の日に実施します。

(3) R A N (Rapid Automatized Naming)

数字と絵が並んだ課題の左上から右下まで飛ばさずにできるだけ早く名前を言い、言い終えるまでの所要時間を測定します。

(4) 計算

加算，減算，乗算，除算の順番に問題を実施する。それぞれ6問ずつで構成されています。

支援の例

S T R A W－R検査マニュアルには、聴覚法を用いたひらがな、カタカナの読み書きや漢字書字の指導法が紹介されています。



入手先

入手先：インテルナ出版株式会社

価 格：

種 別	定価（税込み）
検査マニュアル	2,808 円
刺激・課題集	3,780 円
記録・答案用紙＜小学1年生用＞（20名分）	3,780 円
記録・答案用紙＜小学2・3年生用＞（20名分）	3,780 円
記録・答案用紙＜小学4年生用＞（20名分）	3,780 円
記録・答案用紙＜小学5年生用＞（20名分）	3,780 円
記録・答案用紙＜小学6年生用＞（20名分）	3,780 円
記録・答案用紙＜小学生全学年セット＞（各20名分）	21,600 円
記録・答案用紙＜中学生用＞（10名分）	2,160 円
記録・答案用紙＜高校生用＞（10名分）	1,620 円

検査を実施するためには、「検査マニュアル」、「刺激・課題集」、「記録・答案用紙」の3点がすべて必要です。

2 基本のアセスメント

URAWSS－Ⅱ

目的・特長

読み：小学1年～6年

書き：小学1年～成人

小中学生の読み書きの理解（URAWSS）は、学習に影響しやすい読み書きの速度を評価する検査です。URAWSS－Ⅱは、対象年齢を中学生までに拡大したこと、読みの課題は基本的に個別実施にしたこと、ワープロ入力や代読など、読み書きの困難を補う方法を検討するための介入課題（必要に応じて実施）を追加したことが特長となっています。

適用学年（年齢）

読みの評価については、小学1年生～6年生の標準値との比較が可能です。

書きの評価については、小学1年生～6年生、中学1年生～3年生、高校生・成人の標準値との比較が可能です。

検査の構成

- ・書き課題【1分間の書字速度】
- ・読み課題【1分間の読み速度】
- ・内容理解問題【読んだ文章に関する質問の正答数】
- ・書きの介入課題
【手書きと比べたい方法（ワープロ入力・課題用紙の拡大 等）を使って文章を書き写す】
- ・読みの介入課題
【大人が文章を読み上げて質問に答える（代読）】

検査手順

読み書きの課題の平均的な実施時間は、約20分です。また、介入課題の実施時間は、約20分です。各課題は、以下の手順に沿って実施していきます。

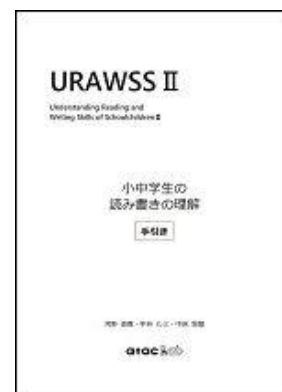
- ① 書きの課題の実施
- ② 読みの課題の実施
- ③ 介入課題の実施

支援の例

URAWSSⅡの手引きには、「見ることへの支援」「運動への書字支援」「聴覚への支援」の3つに分けて支援方法が紹介されています。

入手先

株式会社 atacLab 2,295円（基本セット：手引書、課題用紙1年～6年以上用 各1名分）



3 より詳細なアセスメント

URAWSS—English

目的・特長

中学1年～3年

中学生の英単語の読み書きの理解（URAWSS—English）は、中学生の英語学習における単語学習のつまずきと、それに対する具体的な配慮の方法を調べるために作成されました。

例えば「英語の音と文字を結びつけることに困難を抱えている」ため、英語の学習を繰り返してもなかなか成績が上がらないというような生徒がいます。そのような生徒には、この検査の結果から、どのような英語学習が適しているのかを考えることができます。

適用学年（年齢）

中学1年生から3年生

検査の構成と手順

- （１）「E→J 課題」：英単語の意味の理解しやすさは、「文字を目で見えて読む」方法か「音声を聞く」方法かを確認する
- ① 1回目・・・紙に書かれた英単語を見てその意味を書きます。
 - ② 2回目・・・音声を聞いた後にその意味を書きます。
- （２）「J→E 課題」：日本語から英単語の想起・表出のしやすさは、「アルファベットで表記」か「カタカナで表記」かを確認する
- ① 1回目・・・日本語に当てはまる英語を「アルファベット」で書きます。
 - ② 2回目・・・日本語に当てはまる英語を「ひらがな」か「カタカナ」で書きます。

検査の特長

本検査は、①英単語の語彙力と綴り方の評価ができる、②集団でも個別でも実施可能、③評価のための時間は20分、④効果的な支援方法の手がかりを得ることができることが特長です。

支援の例

結果によって次のような支援の例が考えられます。

- ・「E→J 課題」で「音声を聞く」方法が理解しやすい場合…タブレットパソコン等で音声読みあげ機能を活用する。
- ・「J→E 課題」で「カタカナ表記」の効果がある場合…スペルを口頭で言う。音声入力機能を用いて文を書く。

入手先

株式会社 atacLab 1,242円（1人分セット：手引書、課題用紙 全学年共通 各1名分）

3 より詳細なアセスメント

CARD 包括的領域別読み能力検査

目的・特長

小学1年～6年

「CARD」は、集団実施と個別実施の両方が可能です。「文字・単語の処理」「文の処理」「文章の処理」のそれぞれの段階において課題がないかをチェックするための検査です。検査実施者に必要な資格や基本条件はありません。

ガイドブックには記録用紙や自動換算プログラム（プロフィール表・分析ページ）をダウンロードできるURLが掲載されています。自動換算プログラムに回答結果を入力するだけで、簡単に検査結果を評価することができます。

適用学年（年齢）

小学1年生～6年生の子どもに用いるために作成されました。ただし、ひらがな・カタカナの学習が一通り終わっていることを想定しているので、小学1年生に検査する際は、2学期以降に実施するのが望ましいです。

検査の構成

検査用紙は2冊（「ことばの問題」と「文の問題」）に分かれており、「ことばの問題」は4つ、「文の問題」は3つの下位検査で構成されています。「ことばの問題」はCDを用いて行い、実施にかかる時間は45～50分です。「文の問題」は実施時間が30～40分で、簡単に実施することができます。

入手先

株式会社スプリングルス
TEL 077-543-5870

価格 ガイドブック付セット 3,608 円
(検査実施ガイドブック CD付, 問題集 文の問題・ことばの問題 各1冊)



3 より詳細なアセスメント

『見る力』を育てるビジョン・アセスメント「WAVES」

目的・特長

小学1年～6年

「WAVES」は、おもに学童期の子どもに対し、視覚関連の面で課題がないかをチェックするための検査です。個別、集団のいずれでも使用でき、検査実施者に必要な資格や基本条件もありません。検査用紙は、コピー用原本をコピーして使用できるようになっています。検査結果の評価には、4領域の指数や、プロフィール表があります。この解釈に従い、課題が見つければ、その問題に合わせた対応・配慮を行い、同時に能力を伸ばすための練習を検討します。最初に取り組む練習としては、「はじめてのトレーニングドリル」を活用できます。

適用学年（年齢）

小学校1年生から6年生を対象として作成されています。中学生以上の子どもについては、参考値として学習支援上の手掛かりを得ることができます。

検査の構成

基本検査と、必要に応じて実施する補助検査があります。

実施する下位検査の選定、検査の順番

実施する下位検査は、その目的に合わせて実施者が判断します。補助検査は通常実施しませんが、形あわせ、形さがし、形づくり、形みきわめ、形おぼえ、形うつしのうち複数またはいずれかで成績低下が顕著な子どもにおいて、基本的な視知覚に問題があるかどうかを調べるために実施します。

実施時間

基本検査の実施にかかる時間は多くの子どもでおよそ60～70分です。補助検査の実施にかかる時間は多くの子どもでおよそ5～10分です。実施にあたっては、1回の検査ですべてを実施することが望ましいのですが、検査が2回にわたるようならば、2回目の検査は1回目の検査から1週間以内に実施するよう努めます。

検査の採点方法

「WAVESプロフィール自動換算ソフト」を学研のwebサイト「学校教育ネット」からダウンロードして活用できます。 <http://gakkokyoiku.gakken.co.jp/>

入手先

学研 18,000円＋税

参考図書



LDについて解説されている本

- ・品川 裕香「怠けてなんかない！ ディスレクシア～読む・書く・記憶するのが困難なLDの子どもたち」岩崎書店，2003
- ・宮本 信也「LD 学習症（学習障害）の本（育ちあう子育ての本）」主婦の友社，2017
- ・内山 登紀夫「ふしぎだね！？ LD（学習障害）のおともだち（発達と障害を考える本）」ミネルヴァ書房，2006

支援法・指導法・合理的配慮に関する本

- ・加藤 醇子「ディスレクシア入門『読み書きLD』の子どもたちを支援する」日本評論社，2016
- ・河野 俊寛「読み書き障害のある子どもへのサポートQ & A」読書書房，2012
- ・村上 加代子「読み書きが苦手な子どものための英単語指導ワーク」明治図書出版，2018
- ・近藤 武夫「学校でのICT利用による読み書き支援－合理的配慮のための具体的な実践」金子書房，2016
- ・柘植 雅義「30の事例で理解する校長・教頭の合理的配慮」教育開発研究所，2018

当事者・家族の本

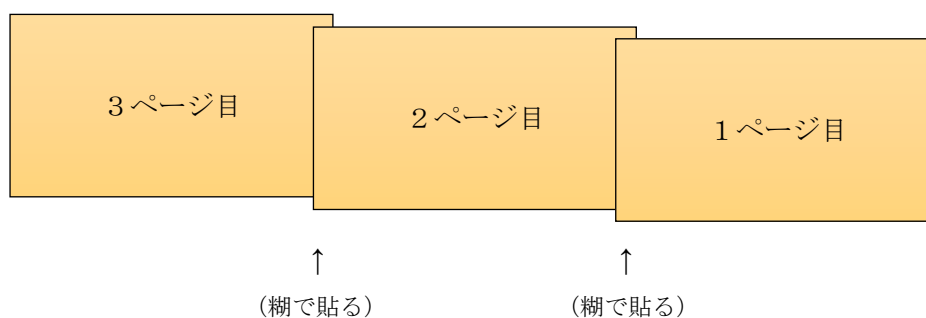
- ・井上 智・賞子「読めなくても、書けなくても、勉強したいーディスレクシアのオレなりの読み書き」ぶどう社，2012
- ・小菅 宏「僕は、字が読めない。読字障害（ディスレクシア）と戦いつづけた南雲明彦の24年」集英社，2009
- ・千葉 リョウコ・宇野 彰「うちの子は字が書けない（発達性読み書き障害の息子がいます）」ポプラ社，2017
- ・濱口 瑛士「書くことと描くこと ディスレクシアだからこそできること」ブックマン社，2017

巻末資料

T式ひらがな音読支援 1年生向け 簡易アセスメントの検査用紙，記録用紙

使用方法は，p.38～42 を御参照ください

- ① 直音連続読み 検査シート（3 ページ） 3 枚を横に貼り合わせて使用



- ② 直音連続読み 記録用紙
- ③ 単音連続読み 検査シート
- ④ 単音連続読み 記録用紙
- ⑤ 単文音読 検査シート（3 ページ）
- ⑥ 単文音読 記録用紙

ここに掲載した検査用紙等は，国立成育医療研究センター
副院長 小枝 達也 先生，北海道大学教育学研究院 准教授
関 あゆみ 先生より御提供いただきました。

わ	す	た	ぶ	ち
べ	み	ぎ	よ	ぞ
ぶ	む	だ	ほ	ら
ゆ	で	あ	が	く
る	ぽ	き	の	ち
お	せ	げ	ふ	ど
は	め	び	つ	づ
ぺ	や	ぎ	こ	ひ
け	ぜ	ろ	ん	れ
ぱ	て	か	を	う

え	こ	ぴ	た	や
ぐ	れ	ぽ	ち	う
せ	だ	り	ぶ	ま
な	ば	す	ら	ぐ
わ	を	め	ず	お
に	げ	む	み	ど
こ	ね	じ	ま	ぐ
ぬ	ず	さ	な	と
へ	し	え	ば	い
ぼ	そ	も	り	ぴ

く	よ	い	け	い
ち	き	へ	ゆ	の
は	ぎ	に	が	る
か	も	ぜ	て	ぶ
ほ	つ	じ	く	づ
あ	ぬ	ば	し	で
ふ	ぎ	と	ん	び
そ	ね	ぞ	さ	ぼ
ろ	ひ	ぱ	て	か
を	う	け	ぜ	ろ

実施日（ 年 月 日） 学校名（ ）
（ ）組（ ）番 性別（男・女） 生年月（ 年 月） 利き手（右・左）

1. 直音連続読み検査 （読飛ばし✓，読み誤り×，自己修正△）

すべての項目
を記入してくだ
さい。

41			31			21			11		
わ	べ	ぶ	ゆ	る	お	は	ぺ	け	ぱ		
す	み	む	で	ぼ	せ	め	や	ぜ	て		
た	ぎ	だ	あ	き	げ	び	ぎ	ろ	か		
ぷ	よ	ほ	が	の	ふ	つ	こ	ん	を		
ち	ぞ	ら	く	ち	ど	づ	ひ	れ	う		

91			81			71			61			51		
え	ぐ	せ	な	わ	に	ご	ぬ	へ	ぼ					
こ	れ	だ	ば	を	げ	ね	ず	し	そ					
ぴ	ぽ	り	す	め	む	じ	さ	え	も					
た	ち	ぶ	ら	ず	み	ま	な	ば	り					
や	う	ま	べ	お	ど	ぐ	と	い	び					

141			131			121			111			101		
を	ろ	そ	ふ	あ	ほ	か	は	ぢ	へ					
う	ひ	ね	ぎ	ぬ	つ	も	ぎ	き	よ					
け	ぱ	ぞ	と	ぱ	じ	ぜ	に	ぺ	ご					
ぜ	て	さ	ん	し	く	て	が	ゆ	け					
ろ	か	ぼ	び	で	づ	ぶ	る	の	い					

1分以内に読み終わった場合は時間を記録 （ 分 秒）

・直音連続読み検査（まとめ）

	1分間に 読んだ文字数(A)	誤読数(B)		自己修正△	1分あたりの 文字数(A－B)
		読み飛ばし ✓	読み誤り ×		
合 計					

よ	ず	ぢゅ	に	びゃ
と	にゃ	え	しよ	く
じよ	ら	ちゅ	ぺ	れ
ぜ	え	ぢゅ	ぢ	りゃ
び	にょ	か	ひゅ	じ
りゅ	ぼ	じゅ	つ	ぶ
い	お	びゃ	ぢよ	ま
げ	びゅ	む	しゃ	が
びよ	て	ぢゃ	ぐ	の
は	みよ	ぬ	し	ぢゃ

2. 単音連続読み検査

記入もれのないよう
に注意してください。

は	びょ	げ	い	りゅ	ぴ	ぜ	じょ	と	よ
みょ	て	ぴゅ	お	ぼ	によ	え	ら	にゃ	ず
ぬ	ぎゃ	む	びゃ	じゅ	か	きゅ	ちゅ	そ	ぎゅ
し	ぐ	しゃ	きょ	つ	ひゅ	さ	ぺ	しゅ	に
ちゃ	の	が	ま	ぷ	じ	りゃ	れ	く	ぴゃ

㊟	読み飛ばし→確認では読める
⊗	読み誤り→確認では読める
△	自己修正
㊤	読み飛ばし→確認でも読めない(未習得)
×	読み誤り→確認でも読めない(未習得)

音読時間（ ）秒

読み飛ばし（ ）個

読み誤り（ ）個

自己修正（ ）個

未習得（ ）個

※ 習得、未習得とは関係なく、『読み飛ばし』、『読み誤り』は、確認する前の数を書いてください。

あお まる 青い丸にさわってから あか 赤い しかく 四角にさわってください。

くろ しろ しかく うえ あか まる
黒い四角の上に赤い丸をおいてください。

あか まる しろ しかく
赤い丸ではなくて白い四角をとってください。

実施日（ 年 月 日） 学校名（ ）
（ ）組（ ）番 性別（男・女） 生年月（ 年 月） 利き手（右・左）

2. 単音連続読み検査

記入漏れがないようにお願いします。

は	びょ	げ	い	りゅ	ぴ	ぜ	じょ	と	よ
みょ	て	びゅ	お	ぼ	によ	え	ら	にゃ	ず
ぬ	ぎゃ	む	びゃ	じゅ	か	きゅ	ちゅ	そ	ぎゅ
し	ぐ	しゃ	きょ	つ	ひゅ	さ	ぺ	しゅ	に
ちゃ	の	が	ま	ぶ	じ	りゃ	れ	く	ぴゃ

音読時間（ ）秒

読み飛ばし（ ）個

読み誤り（ ）個

自己修正（ ）個

未習得（ ）個

㊟	読み飛ばし→確認では読める
⊗	読み誤り→確認では読める
△	自己修正
㊞	読み飛ばし→確認でも読めない(未習得)
×	読み誤り→確認でも読めない(未習得)

「自己修正」は、後で確認したものを記録するのではなく、途中自分で言い直したものを記録します。

3. 単文音読検査

	音読時間（秒）
① あお まる 青い丸にさわってから あか しかく 赤い四角にさわってください。	
② くろ しかく 黒い四角の上に うえ あか まる 赤い丸をおいてください。	
③ あか まる 赤い丸ではなくて しろ しかく 白い四角をとってください。	
合 計	

音読時間を小数第2位まで記載します。 例) 5. 5 9 秒 3つの時間を合計します。

おわりに

日々、教育相談業務の中で、読み書きに困難さがある子どもへの指導や支援を保護者の方や先生方と一緒に考えていると、読み書きの指導・支援や合理的配慮は、それだけで完結するものではなく、芋づる式に「より深いテーマ」へと導かれることを痛感します。例えば、合理的配慮について検討していると、他の児童生徒に対してどのように説明し、理解を得るかというより難しい課題に直面します。また、将来的に子どもが自分から配慮要請ができるように導くためには、どのように自己理解を深めていけばよいか、という課題も現れてきます。

支援が必要な子どもには、合理的配慮として代読や代筆、PC入力などが認められ得る時代になりました。そのような状況の中で、「読み書きに困難さがある子どもに保障しなければならない本質的な学習」は何か、ということも考えさせられます。漢字や英単語を多く覚えることではなく、それらを活用した先にあるものが本質的な学習になるのでしょうか。新学習指導要領が「主体的・対話的で深い学び」を通して育成することを求めている資質・能力とも重なるところが多いように思われます。

本冊子で紹介した通り、様々な指導法や教材が開発されてきていますが、現時点では、読み書きの困難さを「改善すること」はできても「解消すること」は困難です。したがって、「苦手なところを重点的に指導し、ほかの子どもに追いつくこと」を目標として掲げると、子どもも指導者も苦しくなり、結果、双方が不快感を抱くことになります。まずは、子どもに関わる大人が、適切な理解を深めることが重要です。市川氏は次のように述べています。

「他の子どもたちと同じようにスラスラと読んだり書いたりはできるようにならない。しかし、子どもが『自分のせいではないこと』『味方になってくれる先生がいること』『自分にとって少しでもやりやすいやり方があること』を知っていくことは、その子どもの人生を支える上で最も重要で大きな力になることではないだろうか」（市川奈緒子、2016.「読み書き障害のある子どもに対する支援—学校における『今すべき』支援とは—」. 白梅学園大学・短期大学紀要 52. p. 87）

今後、読み書きに困難さがある子どもに関する理解がさらに広がり、必要なタイミングで適切な指導・支援、合理的配慮が広く行われるようになることを期待しています。本冊子はその一助となれば幸いです。

冊子の編集にあたっては、情報収集を可能な限り広く行いましたが、偏りや不備な点もあることと思います。また、各研究成果の理解にも不十分な点があるかもしれません。もし、お気づきの点がございましたら、当センターのwebサイトから御意見をお寄せいただけるとありがたく存じます。御意見や情報提供を受けて、今後も改訂をすすめ、本冊子をより有用なものにしていければと思います。

最後になりましたが、本冊子に掲載した指導法や教材、アプリ等についての情報については、開発者の方や出版社、販売会社等に原稿内容の確認をお願いした上で、掲載許可をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 7 月

編集班チーフ

福井県特別支援教育センター

指導主事（特別支援教育） 為国 順治

執筆者一覧（平成 29 年度 福井県特別支援教育センター所員）

所 長	西 尾 幸 代
指導主事（特別支援教育）	岸 野 美 佳
〃	源 甲 斐 恵 美
〃	松 村 博 江
〃	宇 野 由 利 子
〃	齋 藤 千 晶
〃	大 石 橋 義 治 （編集班）
〃	為 国 順 治 （編集班）
〃	岩 永 英 子
〃	馬 田 美 紀 （編集班）
〃	坪 川 美 苗
〃	佐々木美保
〃	立 石 有 紀 （編集班）

Web 掲載について

本冊子の pdf（オールカラー版）は、福井県特別支援教育センターの web サイトの特設ページに掲載します。必要に応じて印刷して御活用ください。また、今後、正誤表や追加の情報も web サイト上に随時、掲載いたします。 <http://www.fukuisec.ed.jp/>

御意見や情報提供，お問い合わせは，web サイトに設置したフォームよりお願いいたします。



あらかじめ、
幸せだったらいいな。



発行 平成30年 7月
発行者 福岡県特別支援教育センター
〒910-0846 福岡市四ツ井 2-8-1
☎ 0776-53-6574 Fax 0776-52-6272
URL : <http://www.fukuisek.ed.jp>
E-mail : tokuse@pref.fukuilg.jp